

平成26年第13回教育委員会定例会記録

平成26年8月18日（月）

杉並区教育委員会

教育委員会記録

日 時 平成26年 8 月 18 日 (月) 午後 2 時 00 分 ~ 午後 4 時 48 分

場 所 教育委員会室

出席委員 委員長 馬場 俊一 委員代理者 對馬 初音
委員 折井 麻美子 教育長 井出 隆安

欠席委員 (な し)

出席説明員 事務局次長 井口 順司 学校教育部長 和久井 義久
生涯学習スポーツ担当部長 井山 利秋 中央図書館長 渡辺 均
庶務課長 岡本 勝実 特別支援課長 塩畑 まどか
済美教育センター所長 白石 高士

事務局職員 庶務係長 井上 廣行 法規担当係長 岩田 晃司
担当書記 仲野 祥一

傍聴者数 21名

会議に付した事件

(議案)

議案第42号 杉並区立小学校において使用する教科用図書（平成27～30年度使用）の採択について

議案第43号 杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書（平成27年度使用）の採択について

目 次

議案

- 議案第42号 杉並区立小学校において使用する教科用図書（平成27～30年度使用）の採択について・・・・・・・・・・ 4
- 議案第43号 杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書（平成27年度使用）の採択について・・・・・・・・・・ 49

委員長 皆様、こんにちは。それでは、これから始めさせていただきます。

写真撮影の申請が出ておりますが、会議の冒頭だけに限らせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。また、審議が始まりましたら、写真撮影あるいは録音についてはご遠慮いただきたく、お願いいたします。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

それでは、ただいまから、平成26年第13回杉並区教育委員会定例会を開催いたします。本日の議事録の署名委員は対馬委員にお願いいたします。よろしく願いいたします。

本日の議事日程は、ご案内のとおり、議案が2件となっております。審議に先立ちまして、傍聴の皆様方をお願い申し上げたいのですが、会議中の私語・雑談等のご遠慮いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは、議案の審議に入らせていただきます。日程第1、議案第42号「杉並区立小学校において使用する教科用図書（平成27～30年度使用）の採択について」の議案を上程し、審議いたします。済美教育センター所長からご説明をお願いいたします。

済美教育センター所長 では、私から議案第42号「杉並区立小学校において使用する教科用図書（平成27～30年度使用）の採択について」、ご説明いたします。

今年度、採択を行う教科用図書は、前回、採択を行った教科用図書の内容と学習指導要領の変更はございませんが、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律等の法令に基づき、平成27年度から平成30年度までの4年間使用するものとなります。文部科学省の検定に合格した9教科11種目46種類247点の教科用図書からご審議いただくこととなります。

次に、調査事務についてご報告いたします。教科用図書の調査研究については、教育委員会が任命した委員による教科書調査委員会を設置し、規則、要綱、手引きに基づき、全ての教科用図書について専門的な見地から調査研究を行いました。その際、種目別の調査を各種目別調査委員会へ、学校別の調査を各小学校へ依頼し、その報告書をもとに合計4回の協議を行ってまいりました。その協議に当たっては、教科書展示会で区民の皆様方からいただいた区民アンケート324通も参考にしております。また、第4回目の調査委員会においては、保護者の方にも傍聴いた

だき、委員長の求めに基づきご意見をいただいたところです。

調査研究結果につきましては、8月6日に教科書調査委員から教育委員へ、調査報告書とともに口頭でもご報告をさせていただいたところです。提案理由は、義務教育諸学校の教科用図書無償措置に関する法律第13条及び第14条の規定に基づき、区立小学校で使用する教科用図書を採択する必要があるため、ご審議をお願いするものでございます。議案の朗読は省略させていただきます。

委員長 ありがとうございます。それでは、これから審議に入らせていただきたいと思いますけれども、議案の参考資料の種目順に審議を行いたいと思います。審議に当たっては、種目ごとに皆様からご意見を伺いまして、委員会としての合意に達するようにしたいと思います。なお、発言される際には、出版社名を明らかにしてからご発言いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは、国語から始めさせていただきたいと思います。まず、折井委員から、国語についていかがでしょうか。

折井委員 国語の教科書ですけれども、古典的な読み物ですとか、伝記、随筆などを子どもたちの発達段階にあわせて非常にバランスよく扱っている点で、どの教科書も本当に完成度の高いものという印象がございました。物語ですとか随筆のところも大事だと思うのですけれども、高学年で重要になってくる学ばせたい点として、論理的思考力ですとか、表現力の養成というのが非常に重要になってきますので、そういった観点から見てまいりました。5社ございますけれども、やはり、現行の光村図書が一番すぐれているかなという印象を持ちました。また、東京書籍も私はとても注目しております。

光村図書なのですけれども、報告書にもありますように、生活場面に沿って児童の関心を深める内容になっているという点がすぐれていると思いました。例えば、5年生になりますと、事実と考えを区別して報告するというような、特に現実の生活で役に立つというところから見ても、とてもいい教材かなと思いました。6年生の討論会を開くに当たって、どうしましょうといったような内容もございました。問題提起をし、現状を分析して何か提案していこうということは、本当に高度な思考力と表現力を養うという点でとてもいい課題ではないかなと思いました。特にいいと思ったのは、身近なテーマを使って、しかも自分で選んで

それを1つの提案まで持っていくという過程を学習させることができるという点でとてもいいと思います。主体的な学習というものにつながる良い教材だと思いました。

一方、東京書籍も私はとてもいい教科書だと思ったのですが、特に新聞記事を利用して読み比べ、例えば、5年生の「送り手のメッセージを読み取りましょう」というものですか、4年生の上巻の「広告と説明書の読み比べ」といったような比較する活動がとてもすぐれていると思いました。子どもというのは、どうしても素直に与えられた情報をそのまま飲み込んでしまう傾向があると思いますので、客観視するというか、思考力を養う良いトレーニングになっているのではないかなと思いました。文章構成図ですか、討論の仕方、ノートづくり方等についても、とてもいい教材があって、とてもいいと思いました。

光村図書と東京書籍、とてもすぐれていると思うのですが、やはり全般的に、今、注目した点以外のところでも非常にバランスよく取り扱っている光村図書がいいのではないかなと思います。

委員長 ありがとうございます。それでは、對馬委員、いかがでしょうか。

對馬委員 国語というのは、全ての基礎になる科目かなと思いますので、やはり、読む、書く、聞く、話す能力はコミュニケーションにつながっていく大事な能力をつくる基礎となる科目かなと思います。主体的な学びを引き出すことが有効かどうかと、読む、書く、という力をつけることに有効かどうかということで見えていきまして、読書への展開に関しては教育出版が私は一番よかったかなと思います。

それから、三省堂は別冊がありまして、大変おもしろいつくりをしているのですが、別冊だと開かないで終わってしまう可能性もあるのではないかという指摘も教科書調査研究報告会でもございました。

現行で使っている光村図書ですが、1年生の「おおきな かぶ」の語順がこの光村図書だけ違うのですね。そこのところを教科書調査委員会の調査報告において聞いてみましたら、特に現在、現場で問題はないということでした。それから、昔話がいっぱい部分が、昔話ではない絵も掲載されている点でちょっと引っかかりはあるのですが、これも特に混乱はないようですので、それでしたら、物語と説明文とか随筆、その他のバランスが非常によく掲載されていまして、現行の光村

図書がよろしいのではないかと思います。

委員長 ありがとうございます。それでは井出教育長からお願いします。

教育長 先ほど、済美教育センター所長から話がありましたけれども、今回は学習指導要領が改定されたわけではないということです。そうは言っても、この間、4年間使ってきた中で、様々な改良はされているわけですが、それはあくまで改良であって、内容的な差し替えが大幅にあったということではない。例えば、5、6年が上巻と下巻になっていたものを1冊にして合本にした会社もありますし、どちらかというところ、国語は、5、6年は1冊にして分冊型ではなくなっているところが増えてきているのですけれども、それも今回の特徴かなと思って見ました。内容的にはほとんど変わっていない。そういうことからすれば、この4年間使ってきた光村図書でいいかなという思いはしております。

1年生の一番初めの部分と6年生の一番最後の部分というのは、各社共通して、それぞれ思い入れの強い入り方をしているのです。ここはもうほとんど変わらない。ただ、挿絵が動物から人間になったり、あるいは、非常に牧歌的な教室の絵が、もう少し現代的な教室の絵になったりという変化はあるけれども、そんなには変わっていない。学習指導要領が変わらないということから考えれば、そういうことだろうというふうにして読みました。

特徴的なのは、日野原先生とか司馬遼太郎とかいった、いわば人生の大先輩が、これからの時代を背負っていく6年生に、君たちへ、あるいは、これから社会を生きていく皆さんへという形でメッセージを寄せている。これもほぼ定番で何社か扱っております。

そういう中で、光村図書がドナルド＝キーンの「日本人になること」という新しいテーマで書いています。これもおもしろいなと思いました。それから、学校図書が一番最後の参考の読み物の中に川村たかしの「山へ行く牛」。これは言ってみれば、非常にスタンダードな少年、少女に向けた物語。戦争に行った後のお父さんが置いていった牛の面倒を誰が見るのかという、少女と牛の愛情を非常にきめ細やかなタッチで書いているもので、大変、物語としても完成度が高い、文学作品としても評判のいいものです。こここのところ、ちょっと目につかないかなと思っていたら、今回これが入ってきている。そんなふうにご検討すると、各社ともこの4年間、いろいろな工夫をして学校での学習のためにより使い

やすく、より内容のあるものに、という努力については大いに評価できるかなと思っております。

いずれにしましても、あとはそれほど変わっておりませんので、私も光村図書でよろしいかなと考えております。

委員長 ありがとうございます。私からも言わせていただきたいと思えます。それぞれの教科書、各教科を含めて、自分としては、やはり主体的に学習に取り組める構成になっている。あるいは、資料が載せられているかどうかということ。問題解決型の学習展開に沿った流れになっているかどうかということ。それからもう1つは、やはり理解が苦手な子どもたちへの手だてといいますか、意欲的に、主体的に学べる、そういう子たちが学べるという流れになっているかどうかということ。特に、この辺について中心に見させていただきました。教科書そのものは、ある面では参考書になるような意図も含めてというところが重要なのではないかなと私自身は思っただけで見させていただきました。

まず、国語ですけれども、それぞれ、本当によく洗練された形で内容が吟味されているのが全体に感じた部分です。東京書籍についても、学習計画が非常に明確になっているところが、非常に、自分としてはこれはいいなと感じられました。ただ、ちょっと細かい部分になりますけれども、見開きのページが幾つかあるのですけれども、この辺のところ工夫はされているのだけれども、見にくい部分が若干あるのかなとも思いました。

それから、教育出版につきましては、下段に書いてある情景をあらわす難語句と言いますか、そのようなものの解説が非常にわかりやすい部分があったのですけれども、ただ、漢字の読み取りのところでも平仮名と片仮名の意味、音訓という部分だと思えるのですけれども、この辺のところ子どもたちにとってどうなのかなと。それから、3年の上巻の「かえるのぴよん」というところで、行数をあらわしていると思うのですけれども、この行数の数え方というところが実際にどうなのかなというのをちょっと見させていだいて感じたところです。

それから、三省堂については、別冊がありますけれども、これは大変、工夫された内容であるなということはずごく思ったのですけれども、逆に、この別冊をどういうふうに扱っていったらいいのか、それから、時間的にも扱い方が非常に難しい部分があるのかなという気がいたしました。

た。

それから、光村図書につきましては、学習の見通しのページが大変わかりやすいということ。それから、「この本、読もう」というコーナーが大変、これは今、読書離れといたしますか、そういうものも含めて考えていくと、すごく大事な部分なのかなと、これは大変いいなと思いました。高学年で上下巻が1冊になって若干、重いという部分があるかもしれないのですけれども、その辺については年間の見通しが持ちやすいという部分の利点も考えていくといいのかなとは思いました。先ほど別のところでも言いましたけれども、風景の語句といたしますか、難しい語句のところ絵図が加わってくると、さらにいいなと思いました。

そのような各社のそれぞれの部分を考えていったうえで、また、特に学習指導要領も改定されていないという部分も含めていきますと、全体的に物語の作品数が多くて、子どもたちにとっても学習の幅も大変に広がりやすいということ。それから、年間の見通しも大変持ちやすい利点という部分も考えていきますと、私も光村図書の教科書でいいのかなと考えているところです。

これまで各委員も同じような意見ということですので、光村図書が適切であるのではないかという考え方で進めていきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声)

よろしいですか。それでは、国語については、そのような形で決定をさせていただきたいと思っております。

それでは、続きまして、今度は書写に入らせていただきます。書写につきまして、折井委員からご意見をお願いしたいと思っております。

折井委員 書写なのですけれども、やはり基本的には選択された国語の教科書とペアで使う方が、いろいろな漢字の出る順番ですとか、学習順ですとか、そういった面からもやはり同じものがないかなというふうにも思うのですけれども、ただ、内容というのも非常に重要になりますので、1つずつ見てまいりました。

どの出版社さんの教科書についても、やはり1年生のところ、平仮名から始まり、片仮名が少し入って漢字もやってということで、低学年の場合には漢字1文字ですとか、単語ですとか、そういったものの練習が非常に多いと思うのですけれども、そのあたりでは、もう本当にどの教

科書もとても丁寧にきれいなお手本でわかりやすく提示してくれているなと思いました。

高学年になっていきますと、ちょっと違いが出てくるのが、実践的にいわゆる半紙を目の前にしていない学習。それと、実生活でこれから違う教科でどうやって応用できるか、もしくは中学生、高校生になったときに、自分はどのように手書きで字を書いていくのかという練習というのでしょうか、学習が入ってくるその度合いですとか、その扱い方ではないかなと思います。

私は、パソコンで何か資料をつくるに当たっても、単語の語間、行間の空け方ですとか、大きさをどうするか、色をどうするかといったようなところは、手書きであってもパソコン打ちであったとしても、ほとんど変わらないと思うのですけれども、そういったところがとてもモデル自体もわかりやすく、また、教材としても使いやすくだろうなというのが多かったのが、光村図書と教育出版ではないかなと思いました。

光村図書では、やはり低学年では平仮名ですとか漢字1文字とか単語といったものが多いのですけれども、高学年になると実践的なものが多くなりました。情報による文字の大きさと配列、より効果的に伝えるための工夫ということ、あと、ノートを自分でどうつくっていくかというようなことが扱われていました。

東京書籍の手書き文字で図解ですとか、三省堂の学習を生かそうといったようなもの、日本文教出版も「学級新聞の作り方」、こちらもとてもわかりやすいなと思いました。教育出版の場合、かなり網羅的になっておりまして、ノートのまとめ方、校内掲示物を書く、あとは発表資料を書くというもので、ビジュアルというか、見た目にも本当にわかりやすい。例がわかりやすく、1つの型となるようなもの、しかも、小さくポイントが書き込まれていて、子どもが、このポイントはこうするといいのだ、というのがわかりやすく提示されていると、その練習だけではなくて、社会での、例えば発表原稿だとか、そういった応用が利くなと思いました。

どの教科書もとてもよかったのですけれども、バランスですとか、あとは国語とのペアにするということで、やはり、今回は光村図書がいいかなと思います。

委員長 ありがとうございます。それでは、對馬委員、お願いします。

對馬委員 私は、書写は姿勢であるとか、鉛筆や筆の持ち方といった指導がこの教科書でわかりやすいのかということ。それから、子どもたちが使うときの使いやすさ、見やすさといったところをポイントに見ました。折井委員がおっしゃったように、それぞれ日常生活にも生かせるような、非常にいい展開をしている教科書ばかりだったなと感じます。三省堂が割とシンプルな印象を受けました。私は、学校図書、日本文教出版、光村図書は、中心線が書いてあったり、筆使いが書いてあったりと、そのあたりが非常に丁寧でわかりやすい教科書だなと感じました。

国語とそろえていて使いやすということと、硬筆、毛筆を通した系統的な構成ができているという点で、私は国語と同じ光村図書でいいのではないかと思います。

委員長 ありがとうございます。それでは、井出教育長、お願いします。

教育長 お二人とほとんど変わらないのですけれども、三省堂の書写というのはちょっと変わっているというか、特徴があるなと思いました。というのは、すっきりしているという言い方は抽象的かもしれないのですけれども、要するに、あれもこれもということではなくて、よく言えば精選、普通に言えばあっさりということかもしれません。そういうふうに見ていくと、他の会社の教科書とちょっとニュアンスが違うなという印象で、こういったものも今後、例えば、使い勝手のことなども含めれば、検討していく余地はあるのだろうなと思いました。

現場の報告、あるいは前回からの報告を見ても、現行のペア、つまり同じ会社の国語の教科書と書写の教科書、それを別々にしなければならぬ強い理由もありません。そういったことから、光村図書でよろしいかと思えます。

委員長 ありがとうございます。私は、やはり、1年生と、3年生で毛筆が出てきますので、その部分を特に、導入というところを含めて見させていただきながら考えていきました。

1年生のところですが、東京書籍では、横書きの例がかなり早い段階で出てきているという点。この辺は確かに書き方として必要な部分があるのかなとも思うのですけれども、縦書きが基本になってくると思うので、横書きがあまり早く出てきてしまうと、というところがちょっと気にはなりました。

それから、最初の段階ですので、机に座って書く姿勢の写真。それは

各社とも、それぞれ大変わかりやすい写真が載せられているのですけれども、この辺についても、子どもたちにとって、本当にいろいろな角度から見た段階で、必要な写真がわかりやすいというところが必要なのだろうなということ。

それから、指で文字をなぞるところがあるのですけれども、これもやはり、大きな、ある程度太さを持った形での指なぞりができるというところが出てくるといいのかなと。教育出版などは、大きな字でなぞりやすいところがあるかなと思いました。逆に、指なぞりの部分が細かったりというところもありましたので、その辺は、やはり太い方が子どもたちにとっても、字の形をとる意味でも大変プラスになる部分があるのではないかなと思います。

それから、光村図書については、全体にやはり見やすい紙面割りになっているのかなと思ったのと、姿勢写真も大変わかりやすいということ。それから、3年生の初めの毛筆のポイントについても明確に書かれている。他の部分も同じような形で書いてあるのですが、より明確になっているのかなという思いを持って見させていただきました。毛筆と硬筆の関連というものが示されている部分が光村図書であると思うし、系統性を持った形での構成にもなっている。そういった意味では、丁寧な指導ができる内容になっているかなと思っています。

系統性、あるいは新出漢字等も含めて配列などを考えていきますと、やはり国語の教科書と同じ会社の方が扱いやすいという報告も教科書調査委員会からありますし、その意味ではやはり光村図書が適切であるかなと私自身も思っているところです。

以上のことを含めまして、各委員からも同じように意見が出されました。書写につきましては、光村図書という方向で決定をさせていただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声)

よろしいですか。それでは、そのような形で進めさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

続きまして、社会に移らせていただきたいと思います。流れとしては、今までと同じような形で、各委員からお話をお聞かせいただければと思っています。では、社会について、對馬委員からお願いします。

對馬委員 社会は4社ございました。私は、問題解決型の学習ができるよ

うな構成になっているかということ。それから、統計資料や写真資料が適切、適量であるかということ。見通しを持った学習をするうえで使いやすいかということ。そして、最終的には社会で、世の中で、いい大人になっていく、そういった、よりよい生活ができていく。そこへつながっていくことができているかというようなことをポイントにして見てきました。

教育出版の3年上巻の巻末にある「社会科ガイド」。これは、勉強するうえで非常に有効かなと私は思いました。現在使っているのは東京書籍になるのですが、この東京書籍は最初の部分からずっと働く人のインタビューとか、現地の方のインタビューなどが非常に多く出てきて、生の声という点では子どもにとって大変、大切な資料かなと。実際に近くのスーパーマーケットに行ったり、近所の人に聞いたりという経験はできますが、行くことができないような、例えば、農家の方のお話とか、そういったものが出てきている点で大事な資料かなと思いました。調べる、つかむポイントというようなもので、学習課程がはつきりとわかりやすく出ていること、それから、6年の下巻のところで、災害から身を守るとか、地域の部分で子育て支援施設などを扱っていたりしまして、そういったあたりの教材が非常に身近に感じられるかなと考えましたので、東京書籍が適切であるかなと思います。

委員長 ありがとうございます。それでは、続きまして、折井委員からご意見をお願いします。

折井委員 私も對馬委員と同じなのですが、4つのポイントで見ました。実生活とのつながりを実感して主体的な学習が行えるか。それから、学習課題が明確で問題解決型の学習に適しているか。3つ目が、写真や資料が適切かつ十分にあるかどうか。それから、説明自体が適量、適切であるかということでした。その観点から言うと、日本文教出版と東京書籍はととてもすぐれているかなと思いました。私は受動的な学習にどうしてもなりやすい6年上巻の日本の歴史のところを特に比較をしてまいりました。どうして日本史かということ、私は個人的には日本史がとても大好きで、一番好きな科目なのですが、やはり社会であっても実生活を離れてしまうということで、ちょっと興味が失せてしまうかなという子どもも多いのではないかなと思うので、そこでも、ところどころで問題解決型ですとか、そういったことができるといいなと思った

のです。そのあたりを東京書籍はとても巧みにやっていたか
なと思いました。問いかけにしても、その内容が非常に、本当に児童の
思考を促すような問いかけが多かったのではないかなと思いました。ま
た、これは6年生の歴史のところだけではないのですけれども、調べ学
習の役に立つコラムがとても多いので、問題解決型学習に役に立つの
ではないかなと思いました。

教育出版ですけれども、インタビューの仕方を扱っているところがあ
りましたけれども、とても主体的な学習に役に立つような内容でいいか
なと思いました。ちょっと気になるのが日本史のところなのですけれど
も、説明の文章がやや長くて、事象の説明がずっと続く印象があって、
中高生だとまだ大丈夫かなと思いますが、小学生にはやや単調な感じが
するかなと思いました。

あと、光村図書ですけれども、資料や説明がミニマムというのでしょ
うか、ややあっさりという印象を持ちました。読みやすいという点では
プラスではあるのですけれども、もう少し情報量があった方がいいかな
と思いました。6年については、子どもが話す形式をとっているのです
けれども、あと「～だろう。」とかいったような親しみやすいタイトル
にはなっているのですけれども、説明がすぐ続いていくという印象があ
りましたので、6年に関してはちょっと単調なイメージがあります。

私は、日本文教出版がとてもよかったと思うのですけれども、単元末
の「ふりかえってみよう」のページがあって、その習った内容について
自分で考えたり、学習した内容をまとめるといったようないい練習がそ
こにあるので、とてもいいかなと思いました。その「ふりかえってみよ
う」のページが「考えるヒント」と連動しているという点がとてもすぐ
れていると思いました。「考えるヒント」は、気づきですとか、疑問を
持たせるととてもいい質問がいっぱい出ていて、学習を深める点でと
てもいいかなと思いました。また、福祉ですとか人権に関する内容が充
実しているという点もとてもいいかなと思いました。教科書調査委員会
報告でも、こういった福祉ですとか人権ですとかに関しては、いろい
ろな教科で繰り返し出てくるのが重要であるという言及もございました
ので、こういった点はとてもすぐれているかなと思いました。

ただ、現行の東京書籍が、やはり、問題解決型の学習に非常に一番適
しているかなと思います。社会は児童を取り巻く世界に一番近い教科で、

受動的な学習で終始してしまうと本当にもったいないと思うのですね。とても自分のことしか見えない状態になりやすいような子どもたちを世界に目を向けさせるという、本当に第一歩のところだと思いますので、問題解決型を一番、明確に打ち出していて、わかりやすい東京書籍を私は推したいと思います。

委員長 ありがとうございます。それでは、井出教育長からお願いします。

教育長 各社ほとんど変わらない、というのが全体の印象です。それは当然のことだと思うのですけれども。例えば、丸くカットしてあった写真が長方形に変わるとか、右側にあったものが左側に来るとか、あるいは、1ページ前に来るといったぐらいの変化で、ほとんど使用している図版であるとか写真、また説明も同じという感じです。とはいっても、例えば、東京書籍は「3.11」（東日本大震災）を踏まえて、その後、例えば、原発に関する説明のキャプションが「安全のために十分な備えが必要」となっていたところが、「事故が起きると大きな被害が出る」と変わっています。それから、「少ない燃料で多くの電気を生み出せる」というのは無くなりました。「再利用に取り組んでいる」というのも無くなりました。こういったことは、「3.11」以降の様々な社会的な事象、あるいは、それに関わる社会的な評価、そういったことも踏まえて、適切に表現をし直したのだという意味で、当然のことかなと考えています。

「通潤橋」という珍しい橋がありますけれども、これは前回は資料だったのですが、今回、東京書籍は本編の中に組み込んで、非常に特徴的な用水路として、複雑な機能を持った橋を資料から本編に組み込んで、そこで学習をするようにしているというのも、こういった改良といえますか、改善といえますか、そういったことも見られるところです。

そういったことから、どこでなくてはいけないというふうには私は考えていないので、東京書籍でいだろうと思っているのですが、日本文教出版の、先ほど、折井委員が指摘された人権問題であるとか、あるいは、少子高齢化社会の到来に関する問題であるとかといったものを、他の社に比べると、より丁寧に扱っているなという感じも持っています。恐らく今後、4年後、学習指導要領が変わって新しい教科書が編集される時には、今以上に少子高齢化の問題、とりわけ高齢化の問題、それから、これから成長していく子どもの自分たち自身の問題、こういったも

のがよりクローズアップされてくると思いますので、こういった視点は今後、重視していかなければならないし、学ぶことに大きな意義があって、未来の社会の当事者としての自覚、あるいは、責任を育てるという意味では大事な視点であるだろうと改めて思いました。

委員長 ありがとうございます。それでは、私の意見をお話ししたいと思います。皆さんがおっしゃっている部分と共通する部分がかかなりたくさんあるので、それについては省略させていただきますけれども、まず東京書籍につきましては、やはり、終戦の関係の、6年生のまとめの内容が非常に適切であるということと、体験した方々の話が大変わかりやすく書かれているなど。実際、そういう部分が子どもたちにとってもより身近にというか、考えるうえではプラスになってくる部分があるのかなど。それから、各学年でも同じように実際の担当者の方々の話が適切に入っている点で、大変、理解しやすい中身になっているのではないかなど思いました。

今、教育長から話が出ましたけれども、東京を中心とした内容が多く含まれている部分で身近であるということと、それから、原発についても事実に基づいた表記がされているのではないかなどということも感じました。

領土関係に関する表記については、それぞれ各社とも適切な形で明記をしている部分があるかなと思います。あと、資料面でも非常にいい形で資料が入っているというのがあるのですけれども、光村図書につきましては、合冊になっている部分もあるのかなと思うのですが、どうしても資料数が少なくなってしまう。補助的な資料でということではあるとは思うのですけれども、その辺が少し気になった部分がありました。

それから、日本文教出版につきましては、「まとめの新聞」が大変いい資料であるなということを感じました。

それぞれ各社とも工夫されている部分があるということをも改めて強く感じています。冒頭にも言いましたように、教科書そのものが、やはり、子どもたちの主体的な学習ができる方向で考えられるものであるのが私はいいと思います。問題解決型を含めて、主体的な学習ができていくということを考えていきますと、やはり、現在使っている東京書籍の教科書については、教材の精選がよりされている部分があるのと、学習の道筋というものが非常に明確な構成になっている。そういった意味では問

題解決型の学習がしやすいのではないか。それから、学習問題とか学習計画というものの立て方が紹介されていたり、子どもたちが見通しを持って学習しやすい。そのような内容の構成になっているかなと感じているところです。そんなことを考えますと、やはり、東京書籍の教科書が適切であるかなと思います。

それぞれ、他の委員も同じような内容のことをおっしゃっていますけれども、何かつけ加えて言うことはありますでしょうか。特にはよろしいですか。

それでは、各委員のご意見も含めて、社会につきましては、東京書籍ということで決定させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声）

よろしいですか。では、そのような形にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

それでは、続きまして、地図に移らせていただきます。地図につきまして、対馬委員からご意見をお願いいたします。

対馬委員 地図は2社ございました。地図の読み方や活用の仕方が適切か、資料が豊富にあるか。それから、地図は4年生から6年生まで3年間使いますので、その発達段階に応じた、いろいろな資料があるかといったあたりをポイントに見ていきましたが、2社ともに甲乙つけがたく、私はどちらもおもしろい教科書というか、地図であるなと思いました。

東京書籍は、判が大きくて見やすいし、おもしろい資料もたくさんあるなと感じました。災害の資料であるとか、非常にカラフルで興味を引く資料が大変多かったと思います。

帝国書院ですが、やはり、こちらも地図資料や最新の資料が大変豊富で、問題解決型の学習がしやすい。これは、東京書籍でも問題解決型で学習しやすいとは感じます。帝国書院は、2020年の東京オリンピックの競技場の配置図など、最近の話題なども資料として入っておりました。

地図と情報とを結びつけやすい印象もございまして、現行使っているのが帝国書院でございます。社会の教科書は、東京書籍になりましたけれども、特に地図とそろえる必要はないと教科書調査委員会の報告にもございますので、それであれば、現行の帝国書院の教科書を使っただけではないかと感じます。

委員長 ありがとうございました。では、続きまして折井委員からお願い

します。

折井委員 對馬委員のおっしゃるとおり、本当に甲乙つけがたいというのはこういう教科書のことを言うのだなと。本当に難しい選択だなと思います。東京書籍は学習者向けで、とても興味、関心を引き出す工夫が随所に見られますし、大判で見やすい。資料集としての役割も果たしてくれるという点でとてもすぐれていると思いますし、帝国書院はやはり、地図としての完成度は高い、見やすいということと、やはり、現行のものであるので、先生方が使い慣れているというのはどうしても大きなポイントになってしまうのではないかなと思います。

資料集をどれだけ開かせることができるかというのは、やはり、先生ご自身がどれだけその地図帳を知っているかというところに非常に依ってきてしまいますので、現段階ではやはり、現行の帝国書院かなと思います。ただ、東京書籍も非常にわかりやすく楽しくて、とてもいいと思いますので、あと一步、何かあると、どうしようかなとなるのですけれども、現行ではやはり、よく知っているものということで、帝国書院かなと私は思います。

委員長 ありがとうございます。では、井出教育長からお願いします。

教育長 結論から言うと、どちらでもいいと思うのですね。東京書籍の地図帳は本当に変わりましたね。前は、判が小さかったのですね。それを大きくすることによって見やすくなっているし、扱いやすくなっているかなと思います。地図帳ですから、そんなに中身が変わってくるわけではなくて、どちらがいいかということを考えると、ここまで完成度が高くなってくると、現場が使いやすければどちらでもいいというのが正直なところですよ。

ただ、帝国書院の基本的なコンセプトは、日本を、あるいは地球を外から、宇宙から眺めているのです。一番最初の見開きの次のところの折り込みの「宇宙からながめた日本列島」。これは、地球を離れて見ると、日本はこういう位置にあるのだよと。つまり、どこに何があるかということよりは、丸い地球の中の日本海を挟んでどういう国があって、あるいは、ヨーロッパに行くのにどこを通過して行ったら一番近いかというのは、よく地球儀を通して学習するのですけれども、こういった地球を外から見る視点というのは大事だなと思います。それは、次の世界のところにも出てくるのですよ。51、52ページの、大陸の「私たちの地球」と

いうところで、やはり、「北極の上から見た地球」、「太平洋の上から見た地球」ということで、こういう視点というのは、子どもはなかなか持ちにくい。どうしても平らなところに書かれた地図を使って学習せざるを得ないのですけれども、これはもう当たり前の話で、そうしなかったら、ややこしくてしょうがないですから。学習するに当たっては、平らに書いた地図を見ながらすることについては、別にそれが間違っているとか、合っているとかいう意味ではありませんけれども、ものを考えたり見たりする視点として、地球を超えたところからもう一遍地球を見て、そして、その地球のどういうところに日本があってという。海に囲まれて、そして、近隣の国との関係とかというものも、できれば、そういう高いところから地球を見ていく。そこにある日本を見ていくという視点をぜひ育てていきたいなと思います。ですから、甲乙どちらとも、どちらがいいと言い切れませんが、今まで使ってきたことというだけではなくて、そんな視点も踏まえて、帝国書院を採用したいと思います。

委員長 ありがとうございます。それぞれ本当に甲乙つけがたいという部分は、今のお話の中からも読み取れるかなと思います。私自身も同様の思いを持っています。工夫をされた部分、特にいわゆる資料として扱う部分も含めて、いい内容が記されている。これは、東京書籍も帝国書院も同じような形になっているなと思います。

どうしても、今まで使っている部分というのが加わってくる部分があるのかなと思います。それから、社会科も含めていきますと、何度も言いますが、やはり、問題解決型の学習というものの資料の構成になっているかどうかということとか、あるいは、学習内容により沿った形の資料や写真というのが明記されているかどうか。具体的にお伝えしていないので申し訳ないのですが、やはり、そういう部分では、帝国書院の方が、若干、プラスになっている部分があるのかなと思っています。

やはり、問題解決をしていく中での地図資料とか写真等、あるいは地図の見方、あるいは縮尺等の使い方、あるいは考え方についてもわかりやすく丁寧に説明されているのが帝国書院の方かなと私自身、思うところです。社会科だけではなくて、いろいろな形で様々な情報を関連づけて捉えられるという工夫がされているのではないかなと思って見させて

いただきました。本当に、どうも甲乙つけがたいというのはすごくある中なのですけれども、今までこれまでも使ってきている部分ということも考えていきますと、帝国書院が適切であるかなと私自身も考えているところです。

他に加えることはありますでしょうか。

教育長 今後の地図帳というもののあり方は恐らく変わってくるだろうと私は考えているのです。というのは、単なる地図ではなくて、その一枚の地図の上にどれだけの情報が盛り込まれているかということなのですが、そこに、例えば、とれるものであるとか、名物であるとか、名所であるとか、ということ盛り込んでいく。それは、方位とか方角とか、高いとか低いとかいうことだけではなくて、その書かれている様々なデータを基にいろいろなことを考えていくうえで、こういう地図資料というものの存在はますます重要になってくると思うのですね。なぜ、ますます重要になってくるかということ、グーグルとか、いわば写真撮影したり、動画で撮影したりして、実際にあるように見えるデータも今、インターネットですぐ提供されるわけですよ。そういうものがもたらす、いわば非常にリアリティがある情報と、それから、地図とかこういうデータにいろいろな記号とか約束事を写されたものと、その違いをきちんとわかっていく。ですから、一枚の紙に盛り込まれた情報がどれほど様々なものを提示しているのかということを読み取っていくような努力を、これからそういう学習をしていかないと、地図を見てA地点からB地点に行くとか、あるいは、地図を読むことによって、地形や地勢を理解するといった技術がますます劣化していく中で、やはり、そういう地図帳の果たす役割というのは、逆の意味で大きくなってくると思うのです。

そういうことから考えると、今後、1冊の中に様々な資料を盛り込んだペーパーベースの地図帳というものも、役割がさらに重要になってくるので、内容もそれに合ったような形で変わってほしいなど、成長してほしいなど改めて思いました。

委員長 ありがとうございます。大変重要な部分ではないかなと。ネット社会の中で、紙ベースで示されるものというものの大切さというのを改めて考えていかなければいけない。そういうご意見だったかなと思っています。これは、地図だけではなくて、本当に他教科についても同じようなところがあるのかなとは思っているのですけれども、この辺のご意見も

ぜひ参考にしていかなければいけないなということを感じました。

他にいかがでしょうか。特によろしいですか。では、地図につきましては帝国書院ということで、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

ありがとうございました。

それでは、続きまして、算数に移らせていただきたいと思います。算数については、折井委員からご意見をお願いいたします。

折井委員 算数に関しては、例えば、社会ですとか国語に比べると、1、2度お休みをしてしまうとわからなくなってしまうという可能性が結構高いような教科なのではないかなと思います。算数は抽象的な内容を理解する必要があるので、他の教科よりも思考の過程を丁寧に追ってくれるような教科書が、私は必要なのではないかなと思います。思考の過程が丁寧に扱われていると、復習で前に戻ってきた時に、問題が並んでいるだけよりも、こういう考え方をするのだよなど、ある意味、復習しながらも思考のトレーニングができるのではないかなと思います。なので、休んだ時にわからなくなってしまうという点からも、やはり復習の点でも、その辺が丁寧な教科書を、私は算数においては非常に重視したいなと思うのです。

その点でとてもいいのが、東京書籍と教育出版かなと思いました。東京書籍は、キャラクターがポイントやヒントを示してくれるので、そのポイントでそれを考えてみて、そのヒントを使いながら自分で解決できるような点が、自主的な学習にも役に立つのかなと思いました。

教育出版の場合は、非常に丁寧に解法のステップを示しているので、先ほど申しました復習がしやすいというところがあると思います。丁寧に説明するということは、その分、ページ数も使うということですので、どうしてもどちらかというとな算数が苦手な子ですとか、基礎的なところでつまずきやすい子ども向けになってしまう可能性もあるのですけれども、教育出版は発展問題もとても豊富に入れてくれていますので、習熟度に合わせた指導もしやすいのではないかなと思います。

日本文教出版に関しても、問題解決のヒントが多いので、その点が苦手な児童の助けになるのではないかと。

ちょっと路線が違うのが新興出版社啓林館で、非常にスピード感があって、ちょっとできる子向けなのかなという印象があります。発展問題

も多くて、できるお子さんにはとても最適だと思うのですが、やはり、算数に関しては落ちこぼれない、とにかく絶対に誰も置いていかないという点がとても大切だと思いますので、私は、東京書籍か教育出版がいいかなと思います。

東京書籍は、自主的な学習もちょっと進められる点でとてもいいのですが、問題が豊富でないと、やはり、上のお子さんに対するケアができませんので、現行の教育出版がいいのではないかなと思います。

委員長 ありがとうございます。それでは、對馬委員、ご意見を願います。

對馬委員 私も折井委員と一緒に、やはり、教科書である程度主体的に学んでいける、自分の忘れていたところをああそうだと思い出せるとか、そういうのがやはり、算数の場合、大事になってくるかなと思います。

割とどこも、大日本図書にしても、日本文教出版にしても、学校図書なども、既習事項をきちんと確認してふり返って、そして、この単元はこういうのをやりますよという見通しがあるという点では非常にすぐれていると思います。ノートの書き方とか発言の仕方が示されていたり、巻末の問題のところはチャレンジと確認する問題に分かれていたりというような工夫は各社されていて、そういうところは大変よかったと思います。

新興出版社啓林館に関しては、やはり進みがちょっと早くて説明が少ないような印象を受けましたが、6年生の一番最後に「なぜ、算数を学ぶのでしょうか。」というのがありまして、私は、それはすごくドキッとするような感じがしました。

教育出版に関しましては、やはり説明が丁寧で、かつ易しくてわかりやすいという、非常にありがたいステップで進んでいけるなという気がいたします。「よくあるまちがい」などというのも、ちょっとわかりにくい、つまりきそうな時などには非常に参考になるのかなと感じました。また、練習問題も基礎基本的な問題と応用的な問題とがバランスよく配置されていますので、現行も使っているのも教育出版でありますし、これが使いやすいのではないかと思います。

委員長 ありがとうございます。それでは、井出教育長、ご意見を願います。

教育長 展示会で寄せていただいたアンケートの中に、「円周率が3.14に

なってよかった」というのがあったのですね。これは、本当に罪つくりな話だなどと改めて思ったのですけれども、円周率が3になると、まことしやかに言われたことがあって、それが学力の低下に結びついているかのように言われたことがあったのですけれども、それは全くのデマで、そんなことはあり得ないことは我々はよく知っているし、現場の学校もよくわかっているのですけれども。でも、知らない人に見れば、円周率が3ということはあり得ない、それが3.14に復活したことは大変いいことだと指摘されると、こういったことはきちんと責任を持って、よく理解していただけるように伝えていかなくてはいけないし、元々その話は何だったのかということも改めて、今後、算数を指導していくうえで、あるいは、算数以外の教科を指導していくうえで、保護者に対してもよく理解をしていただきながら教育を進めていく必要があるなと思いました。決して、円周率が3.14でなくてよくて3にした、というわけではないということ、なかなか理解されていないのだなと思って、ちょっとそんなことをアンケートから感じたものですから、触れておきたいと思います。

杉並区では、済美教育センターが中心になって、どういうところをつまずくか、つまり、児童・生徒の学習上の課題はどこにあるのかということ、これを洗い出して、それを解決していくための手だてとなるような学力調査をしているわけですが、このやり方というのは、一番大切なのは、どこをつまずくかということは物事を順序立てて考えていく学習の方法を身につけていくうえで一番大事なところですよ。どこをつまずいているかがわからないまま、その後の指導をしていくのは非常に難しいですから、そういう意味では、理解のステップがそんなに大きなくて、先ほど、お二人の委員からも指摘されましたように、順序立てて物事を考えていく。そして、ここでつまずきやすいなというところをきちんとチェックして再履修してできるようにしていく。この手だては、かなり効果を上げてきていて、学校によっては、私たちが目標にしているA、B、C、D、Eの5つの段階に分けた下のDとEの部分を20%に減らしていきたいという取組をずっと続けてきていて、かなり成果を上げてきている学校もあります。これはやはり、スモールステップを踏みながら、わからないところをそのままにしていかないで、しっかり理解して次につないでいくという学習の姿勢や指導の方法が定着しつつある

など感じております。

そういう意味から、前回、この教育出版を採用する時に議論になった子どもの学びのプロセスを踏まえながら指導していくことができるというこの教科書をもう4年間は使って、子どもの学力を確かなものにしていきたいと考えています。

他が悪いとは思いませんけれども、中学へのつながりを各社とも、かなり意識をしています。例えば、算数を卒業して数学に行く時に、数学的な、例えば負の数であるとか、方程式であるとか、関数であるとか、そういったものを小学校の段階で入門的な部分を扱っておくといった取組を各社ともしていますけれども、そういったことも単にトピックスとして扱うのではなくて、私たちが取り組んでいる小中一貫の教育の中で、小学校は中学校のどこにつながっていくかを意識し、中学校は小学校でどのような学びをしてきたのかということきちんと踏まえて指導していくということが大切になるわけです。教科書をちょっと離れましたけれども、基本的にはそういうことを踏まえて、子どもの学力を確かなものにしていこうという取組をしているわけですから、今は教科書を変えなくてもいいかなと思います。

委員長 ありがとうございます。それでは、私からも意見を述べさせていただきたいと思います。本当に各社ともそれぞれ、吟味された部分もかなり出てきているかなと思います。ただ、最初に申し上げたように、やはり、どうしても理解がなかなかしにくい子どもたちのことを考えていくと、教科書を見ていけばわかるというような、参考書的なというのは曖昧な言い方ですけども、そんな発想というものがあってもいいのかなと私はずっと思っているところです。

東京書籍につきましては、九九の復習が示されていたりとかいう部分も大変いいなと思いますし、それぞれ理解度を考えた内容になってきているなと思いました。ただ、練習問題がもう少しあってもいいのかなというようにところも思っています。

それから、大日本図書につきましては、「レッツトライ」というバリエーション問題。これがすごくいいなと思っています。あと、上下巻になっている方が子どもにとっては使いやすいのかなという部分が、ちょっと気にはなる部分がありましたけれども、そういう意味では吟味された部分があるかなと思いました。

あと、学校図書につきましたは、復習問題、発展問題の配列はとて面白いと思うのですけれども。「中学校へのかけ橋」、これも大変、工夫されていると思うのですが、この辺についてもやはり扱いとして、実際に時間的にどうなのだろうか。十分に扱えるのだろうかというところがちょっと気になるかなと思いました。

それから、教育出版については、「よくあるまちがい」、先ほども出ましたけれども、それから、「算数メモ」などについては、大変わかりやすく参考になるかなと思います。それぞれ、子どもの意欲を喚起する内容というものがポイントで示されている点もすばらしいなと思って見させていただいています。ちょっと6年の「比」のところの漢字が、表題と内容に書かれている字が若干異なっているのがちょっと気になった部分がありましたけれども、そんな部分で考えていくと、内容として十分吟味されているかなと思いました。

それから、新興出版社啓林館は、やはり、非常に進み方が早いと、私も同じように感じました。ただ、資料集については大変いいものがあるかなと思います。あと、3年生で、三角形の中でおにぎりとサンドイッチの写真が出ていたのですけれども、この辺が、これは興味関心という部分で関連づけてというのはあるかなと思うのですけれども、この辺が自分としてはどうなのかなと感じたのですね。悪いわけではないと思うのですが、そのところがちょっと気になったのと、6年生のおよその体積のところでも、ロールケーキが出されていて、それが円柱という形で、これが見られないことはないのですけれども、実際にどうなのかなというところをちょっと感じたところがありました。

日本文教出版では、教科書の横幅がかなり広い部分があるので、この辺の扱い方についてはどうなのかなというようにところをちょっと感じたところではあります。

私自身は、そのような形のものを感じました。やはり、特に算数については、本当にわかった、できたという思いが持てるような、子どもたち一人ひとりがそういう思いを持てる内容のものを考えていきたいなと全体的に感じているところです。その意味では、これまで使っていた教育出版のスマールステップで示されている部分というのは、大変、子どもにとってわかりやすい構成になっているかなと思いますし、用具等の使い方についても丁寧に説明がされていて、発展的な問題、ある

いは練習問題等についても十分な形で量が示されているなというような思いを持ちました。習熟度に応じた形の対応になっているかなとあわせて感じたところです。したがって、私自身も教育出版の教科書が適切であると考えているところです。

他に、委員の皆様でつけ加えることがありますでしょうか。よろしいですか。

それでは、算数につきましては、皆様のご意見を含めて、教育出版の教科書に決定をしたいと思いますが、よろしいですか。

(「異議なし」の声)

ありがとうございました。

それでは、続きまして、理科に移らせていただきます。では、對馬委員からご意見をお願いいたします。

對馬委員 理科は5社ございまして、私は問題解決型の学習ができているか、理科的な流れを理解して学習を進めやすいかということ、それから、写真や資料は魅力的なものが豊富にあるか、安全の配慮があるかといったあたりを見てまいりました。5社とも写真という点では非常にどれもきれいで、実験の手順などもわかりやすいものが多かったと感じております。ただ、意外と調べ学習への発展が割と少ないところが多いかなという印象を受けました。

大日本図書に関しましては、自由研究の進め方などとして、調べ学習への発展が非常に充実しているなという印象を受けました。写真とか偉人の話などの発展的な資料も多かったです。それから、6年生の最後に中学校で学習することが書かれていまして、小中一貫教育にも適切だと思しますので、大日本図書がいいかと思えます。

委員長 ありがとうございました。小中一貫教育ということも含めてということをご意見として出されました。では、折井委員、ご意見をお願いします。

折井委員 理科という科目は、私たちを取り巻く環境ですとか、生命について、自分の生活との関わりの中で学習していく。まずは自分で考えてみて、自分の中で考えを深めながら、そのうえで知識も身につけるといことが非常に重要なかと思えます。2週間ほど前の読売新聞だったと思うのですが、社会に出たら理科は必要なくなると思える高校生の割合が日米中韓の中で一番多かった、高かったと。どのくらい精度の

ある調査か、ちょっとわからないのですけれども、理科は必要なくなるわけがないのにそうってしまうというところで、自分と関わりがないのではなくて、あるのだということを常に意識しながら学習をさせていかないと、やはりちょっと難しくなってくると、どんどんつまらないとってしまうのかなと思いました。なので、とにかく自分との関わりはどのようなだろう。そして、自分でまず考えるというところが重要かなと思いました。ちょっと1社ずつ感想を述べさせていただきたいと思います。

東京書籍に関しては、単元の流れはとてもわかりやすく、ふり返りのページもとてもいいと思いました。ただ、「問題」というこの表題がちょっと引っかかりました。問題集ではないので、問題、解答というようなものだと、ちょっと理科に親しむイメージではないかなと思います。正解を出すため、知識を得るためという部分ではとてもいいのだと、わかりやすいのだと思うのですけれども、これからの教育の中では自分たちで考えてみようというところが大事だと思いますので、ちょっと私はあまりよくないのかなと思いました。あと、「思い出そう」で、答えの記述がないのですよね。これは、例えば2年生の教科書、1年生の教科書で扱った内容を思い出そうということだと思うのですけれども、ここで先生は多分、時間をあまり使いたくないのではないかなと思うので、時間を使い過ぎないための解答があるといいかなと思いました。

学校図書に関しては、各単元のページの両端に問題解決型の過程が明示されているという点で学習の流れを意識しやすくなっているのですけれども、ちょっと唐突に単元が始まる印象がありました。あと、写真のレイアウトがちょっと単調かなと思いました。

新興出版社啓林館に関しては、写真のレイアウトは普通にいいのだと思うのですけれども、とても説明がしっかりしているという点がプラスでもあり、また、ちょっと大人向け、中高生向けかなという感じがしました。「話し合い」とあるのですけれども、すぐに正解が下に出ているので、ちょっともったいないかなと思いました。正解を知ることが教科の目標の1つだと思うのですけれども、そこをあえてちょっと先生も我慢して、間違ってもいいからとりあえず考えてみようよというところが、自由な発想を引き出すというところが非常に重要かなと私は思います。

あと、現行の大日本図書ですけれども、こちらは問題解決型学習に適しているかなと思います。「予想しよう」ということで、児童の興味関心をまず引き出すというところが巧みだなと思いました。これを何回も繰り返すことによって、思考力を養うトレーニングになるかなと思いました。資料がやや少ない印象があるのですが、教科書調査委員会の報告で伺ったところによると、図書館が充実しているから特に問題はないというコメントをもらったので、その辺はクリアかなと思います。

あと、私は、教育出版に非常に好感を持ったのですが、著名な科学者からのメッセージが多いというのが、子どもの興味を引き出すのではないかなと思いました。過去の偉人の著書だとかが出ているよりも、今、生きている、現実に関心を持って取り組んでいる方たちのメッセージというのは、非常にインパクトが大きいかなと思いました。写真のレイアウトもとてもよかったですし、体験型学習を重視していて、資料として使える図鑑も巻末にあるというのがとてもいいと思いました。

大日本出版と教育出版、こちらはどちらとも私は言えないので、他の委員さんのご意見次第かなと思います。

委員長 ありがとうございます。それでは、井出教育長からご意見をお願いします。

教育長 各社に共通している編集の基本コンセプトは、いわゆるESD、持続可能な社会をどう維持していくかというところだと思うのですね。理科というと、例えば、科学立国とか、科学技術振興など言われて、そのために理科が必要という言い方をしないこともないのですが、直接的に科学技術立国、科学立国、技術立国のために理科があるわけではなくて、むしろ、人間の全人的な発達を促していく。そのために必要な知識や感性を磨いていくわけですから、直接、そういうことに、今、小学校や中学校が結びついていかななくても私はいいかないかな。いずれそういう土壌、そういう素養が育って行って、専門的に力をつけていく子どもが出てくれば、それは本当に願ったりかなったりですけれども。

そういうふうに考えていくと、各社が新しい、これから多分、編集の基本コンセプトに、さらにコンセプトとして重視していこうと思われるのが、このESDだと思うのです。昨年、国立教育政策研究所が発表した「21世紀型能力」というものの中で、一番最後に、持続可能な社会に対する責任ということ挙げているのですが、今後の新しい学習

指導要領が改正されてまとめられていく時に、この視点は大いに強調されていくだろうと思うのですね。ですから、当然、各教科ともそういった視点を踏まえた教科書を編集していくことになるだろうと私は期待をしております。

そんな観点から見ていくと、前回とほとんど変わらないのですけれども、教育出版は、前は「地球となかよし」というコンセプトだったのが、今回は「未来をひらく」に変えたのですね。中身はそんなに変わっていないです。

大日本図書は、6年生の一番最初の見開きのところに、「わたしたちの地球には、豊かな水、空気があり」ということが、「自分たちで調べた多くの事実を関係づけながら、人間の活動と地球環境の関わりについて、みんなで考えていきましょう。」というのが一番最初のキャプションなのです。ですから、教育出版の「未来をひらく」という考えもESDのことを踏まえた内容を支持しているのでしょうし、大日本図書の「たのしい理科」の最初に子どもたちに問いかけている「人間の活動と地球環境の関わりについて、みんなで考えていきましょう。」という、この問題提起も同じことだろうと思うのです。

今回は、本当に私、言いにくいのですけれども、学習指導要領が大幅に変わったわけではないので、この教科書が不都合だと現場から、あるいは教科書調査委員会からの報告にそういう指摘がされていれば、それは十分考慮していかなければならないとは思いますが、特段そういった指摘はありません。ですから、理科においても大日本図書、または大日本図書の基本的な考え方が私は新しいESDの考え方を踏襲していくということだとすれば、変えなければならない理由はありません。ですから、大日本図書をもう4年間使いたいなと考えます。

委員長 ありがとうございます。やはり、それぞれ各社の方々も工夫されたという部分がそれぞれのご意見の中にも出ているかなと思います。私も意見を述べさせていただきたいと思います。やはり、理科離れという部分を考えていった中で、子どもたちがどれだけ意欲的に興味を持って学習に取り組めるかというのが、一番重要な部分ではないかなと思います。それから、あわせて私は、実際に自分でやってきたことも含めて考えていった時に、やはり理科というのは安全上の配慮というのが非常に重要な部分ではないかなと。特に、これは子どもたち自身がわかって

いなければ、自分たちでもわかっていなければいけないのだということ。それでも実際に実験等、あるいは、観察の中でも事故等が起きてしまうという場面があるのですけれども、やはり、この辺のところは教科書の中には十分盛り込まれていかなければいけないのだろうなということもいつも考えていました。

そんな視点も含めて見させていただいたところなのですけれども、安全面の配慮がきちんと示されているのは東京書籍、それから、大日本図書の本を含めて、それぞれ細かく出されているかなと思っています。大日本図書については、非常に的確な形で、細かい形でも出されているのを感じました。他の教科書もそれぞれ出されてはいるのですけれども、先ほど言ったように、子どもたちがしっかりと自覚しながらというところが加わっていくと、その主体的な学習を含めて考えていくと、そういうものが必要になってくるだろうなと思いました。

単元や領域ごとにもわかりやすく表記されているのは、東京書籍含めてそうですし、各社の教科書の題が、先ほど、井出教育長からもありましたけれども、東京書籍は「新しい理科」、大日本図書は「たのしい理科」、学校図書は「みんなと学ぶ小学校理科」、教育出版は「未来をひらく小学理科」、新興出版社啓林館が「わくわく理科」と、それぞれ思いを持った形での題になっているのかなと思います。

大日本図書については、やはり、子どもの意欲を喚起していくという部分を考えた内容になっているのかなと。「確かめよう」から「学んだことを生かそう」という構成、その辺については、やはり、意欲的な喚起を十分に持った教科書の中身になっているのかなと思いました。それから、写真も多く使われて効果的なものが非常に多い。これは各社とも同じように出されているのですが、写真の使い方が非常にきれいになったなど。保護者の方たちの意見の中にも、本当に最近の教科書は表紙から含めてすごくきれいになっているということが寄せられていました。そのようなことが大日本図書の中にも言われるのではないかなと思います。

学校図書も、科学的な思考を高めようとする内容が非常に強い構成になっているかなと思いました。これはちょっと、私の勝手な思い込みかもしれないのですが、5年生が振り子の運動の方から入っている配列なのですが、この辺については実際どうなのかなと。理科の苦手な子ども

にとってはプラスになるのか、それともそうではないのかというところが、若干感じたところです。

それから、教育出版も確かめのテスト等を含めて、私は、これは大変いい内容であるなと思ったのですが、学校図書と教育出版、両方ともそれぞれメダカの学習のところなども、写真と観察カードの表記というのがちょっとわかりにくい。上の写真と合っているのかなと思ったら、若干、違う。間違っているわけではないのですけれども、若干、違っているなというところがあって、かえって、あれはわかりにくくなってしまっているのかなと。教育出版は、研究写真と観察カードの場面がちょっとわかりにくい部分があったかなという気がします。

それから、新興出版社啓林館では、考え方を含めて非常に高度なというか、これは確かにわかる部分なのですが、やはり、苦手な子にとってはどうなのだろうかというところをちょっと感じたところです。やはり、観察の中でも目標がしっかり持てるような内容表現といいますか、構成というものもあっていいのかなと思いました。

やはり、子どもたち自身が安全で安心して、そして、自分から進んで学んでいける、学んでいこうという意欲が出るような、そういう理科の教科書であってほしいなと思っています。その意味では、私自身はやはり、現在、使われている大日本図書の、発展的な資料もたくさんあるということ、あるいは、各社ともありますけれども、自由研究の進め方なども細かく充実した内容になっているなということは感じました。それから、科学に対する興味関心とか、意欲につながる工夫がなされているのではないかなと思います。

先ほど出ましたけれども、小中一貫教育の推進にも関わることで、中学との関連もこちらの方に示されているという部分では、やはり、現在使われている大日本図書が適切ではないかなと感じているところです。

折井委員、先ほど悩んでいるというコメントがありましたけれども。

折井委員 大日本図書で、私はとても、これは効くなと思ったのは、星の観察シートが挟まっていることですね。1枚あるだけで、空を見上げたくなる。授業のときではなくても見上げたくなるような工夫があるので、とてもいいと思いました。

教育出版のことで言い忘れてしまったのですけれども、他社さんに比べて、ちょっと表紙が変わっているというか、印象的だったのですよね。

子どもたちが理科を楽しむ、もしくは、理科の、科学の、生命だとか命だとか環境だとか、そういったものの中に浸っているというか、楽しむ様子が写真になっていて、とても生き生きとしていたのですよね。この理科という教科が子どもに与えるすばらしい影響やインパクトを表現なさりたかったのかなと思いました。そういう表紙の点でもすごく興味を引くようなものでとてもよかったなと思います。ただ、問題解決型学習というのも本当に理科で、特にやってもらえると、子どもたちが主体的に頑張っているねと思えるところで、楽しいと思いながら学習をすることは何より一番効果的だと思いますので、その点で大日本図書がいいと思います。

委員長 他の委員はいかがでしょう。つけ加えることはありますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本当にそれぞれ工夫された部分でということで、そういう意見が出されましたけれども、理科につきましては、現行どおりの形で大日本図書に決定をさせていただくということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

ありがとうございました。では、そのような形で進めさせていただきたいと思います。だいぶ長くなりましたけれども、もう1つ関連する生活に移らせていただきたいと思います。それでは、生活について、對馬委員、ご意見等お願いします。

對馬委員 生活は7社ございました。児童が学校に入ってすぐの部分ですね。主体的な学びを引き出せるかと、意欲を持って生活していけるか、コミュニケーションをとっていけるか。このあたりが教科書の中にどういうふうにあらわれているかなと思いながら拝見いたしました。7社あるので、全部言う和多いので幾つか申し上げます。

日本文教出版は、巻頭の約束事が非常に丁寧でよかったと思いますが、ちょっと絵であるとか、気になるところは幾つかございました。巻末はちょっと盛りだくさんかなという印象を受けました。

教育出版は、「たねになってみよう」という3Dのカードが間に挟まっているのですが、ページをめくっていくときに、ちょっとこれは邪魔になるのではないかなという印象を持ちました。道具の使い方、巻末にあるところとか、その辺はとても丁寧だと思いますし、それから、この教科書は、生活に関連した本の紹介が非常にまとまっていてわかりやすい

と思いました。

それから、新興出版社啓林館は、危険なもののがわかりやすく書かれているなと思いました。ただ、ちょっと字が大きいところなどがある。その分、説明が少ないのかなという印象を受けました。

それから、東京書籍は、植物の成長が両脇に爪のように出ていて、これは見やすいなと。1つずつの写真は小さいのですが、メインになるものができなかった場合に、この横のところですっとやっていくことができるのかなと思いました。

大日本図書なのですけれども、植物を育てる過程の中で、四季を非常に大切に扱っているなという印象を受けました。秋さがしのところなどでも、葉っぱと実と木を全部セットで紹介していますので、やはり、こういうものがあると、この木の下にはこの実があるとか、この葉っぱが落ちている近くでどんぐりを探ることができるとか、そういった意味では、これがセットになっていた方がわかりやすいと思います。

それから、お正月のところは、ただ、お年玉をもらうとか、遊びとかだけではなくて、家族の一員としてどうやってお正月を迎えるかというところがきちんと書かれているように思いました。巻末の資料も充実していて、主体的な学習もしやすいと思います。道具の使い方も丁寧に扱われていると思いましたので、大日本図書がいいのではないかと思います。

委員長 ありがとうございます。それでは、続きまして、折井委員のご意見をお願いいたします。

折井委員 生活の科目、教科に関して、教科書の使われ方がどのような使い方をするのかと考えた時に、基本的に外に出てとか、何か実地で調べてみようということが多いような科目なのではないかなと思うのですけれども、その時に先生が、「ここを開いてみようよ」、「こんな情報がまとめて書いてあるから、そこでちょっと勉強してから外へ行こうね」といったような場面が何となく想像できましたので、そういった観点から見ていきました。

あとは、写真とかは、どの教科書も本当にきれいで、今の時代の小学生は本当に恵まれているなと思いました。ただ、一方で、写真集のようになってはいけないかなと思いました。なので、必要な写真は使用しつつも、やはり、ある程度の情報量が欲しいということで、その観点からいきますと、学校図書、光村図書、新興出版社啓林館がちょっと写真集

というか、絵本のようになっていて、情報量がやや少ないかなという印象がございます。

現行の大日本図書ですけれども、イラストと写真の使い方がとても上手で、インパクトがあって興味を引くなと思いました。對馬委員からもありましたけれども、巻末の学習資料が充実しているので、指導がしやすいかなと思いました。

あと、日本文教出版の教科書に関しても、本文の内容が多くて、「なんでもずかん」等の巻末資料が充実しているのがいいかなと思いました。對馬委員はちょっと多過ぎるとおっしゃったのですけれども、私はこのぐらいあっても、先生が取捨選択して使ってくれるかなと思いました。学習カードに関しては、教科書調査委員会から賛否両論あるという報告がありました。要は、学習カードはモデルになっていて、子どもが「こんなふうに書けばいいのだな」という使い方の指針になってくれる一方で、どうしても誘導されてしまう、似たように書いてしまうということで、ちょっと両論あるのかなという気がしました。そんなところからも大日本図書が、使いやすく適切かなと思います。

委員長 ありがとうございます。それでは、井出教育長からご意見をお願いします。

教育長 この生活で各社共通しているのは、1年生で入学して友達と出会う、先生と出会う、そして、多くのいろいろな家族以外の大人の人に出会うという出会いの場面から全部始まっていくわけですね。出会うのは人間だけではなくて、いろいろな植物であったり、動物であったりするわけですけれども、いずれにしても、新しい生活が始まりますという状況を理解するには、今まで目にしてきたものだけではなくて、新たな出会いというのはスタートとして非常にわかりやすい。そして、1年生、2年生と成長して行って、こんなに大きくなりましたと、次の3年生に向けてつないでいく。これはどこも変えようがない。生活という教科の特徴ですから、それでいいのだろうと思うのですが、その中で理科的なもの、つまり自然科学、あるいは動植物ですね。そういったジャンルと、それから、社会的な行事であるとか、日常生活だとか、いわば社会科学的なジャンル。そういったものをうまく組み合わせながら2年間勉強していくという。出口が、いずれ3年生になると、それが理科につながり、社会科につながっていくということで、どちらも理科ではないけれども、

理科へつないでいく準備、社会科ではないけれども、社会科へつないでいく準備。これをしていかなければいけないので、単なる体験的、経験的に、何でも経験しましたということではなくて、そこに、例えば、一定の課題をどう解決していくかとか、どうしてだろうなというものについて解明していくとか、そういった意欲や態度を育てていく。そんなふうに考えていくと、そんなにどの社も違うことをやっているようには思いません。

4年前の教科書に比べると、結構、工夫がされてきて、変わってきているなという感じはしました。それは、どこか1社が大きく変わったということよりは、各社とも感じが違ってきたなというのあれば、丁寧になってきたなというのもあったりして、そういった意味で工夫や改善がされているなど見ていました。

新興出版社啓林館のハンドブックが特徴的なのですが、新興出版社啓林館は他の教科にも共通しているのですが、やはり高度なものを狙っているなど。これも悪いことではないと思うのですね。教え方によって、あるいは学び方によっては、そこに手がかりや足がかりがあって、しっかりつないでいくことができれば、かなり豊かな学びができるだろうなという感じも持っています。ただ、これは教える者、学ぶ者との関係の中でいろいろな問題が起きてくるかもしれないので、簡単には言えませんけれども、そういう意味では、決して意味のないことではないとも考えています。

日本文教出版のタイトルが「わたしとせいかつ」という、これは前回もそうなのですが、「わたしとせいかつ」という、他は全然違うのですね。「あたらしいせいかつ」とか「たのしいせいかつ」とか、「せいかつ」。この「わたしとせいかつ」というタイトル、これはどういうことからこの「わたしとせいかつ」とつけたのかなと考えたのですが、やはり、主人公は自分であって、その自分が社会にどう関わって、あるいは自然にどう関わって成長していくのかという視点でつくろうとしたのだろうと私は解釈しています。そう見ていくと、だからといって、内容は他と違うわけでもなくて、このコンセプトが内容に生かされて、ぜひ次のときにはこういう部分を強調するのであれば、生かした内容の工夫をしてほしいなど、前回も思いましたし、今回も思いました。学校図書は「みんなとまなぶ」という、これは学び方を言っているわけで、「わた

しとせいかつ」と「みんなとまなぶ」というのは、言っていることが全然違うわけですね。それはある意味、主張であるわけで、そういう主張が編集の中身の中でわかりやすく反映されていくことも大事なかなというように思いもしています。

大日本図書は、どちらかというところ理科的なところにウエイトがかかっているかなという感じで読みました。生活科というのは理科でもなければ、社会科でもないわけですがけれども、それは特徴として挙がってきていると捉えています。

私は、大日本図書の継続でいいのではないかなと思います。

委員長 ありがとうございます。たくさんの方から教科書が出されているのですが、本当にそれぞれ特徴を持った形でつくられているのかなと思っています。

やはり、理科と同じように、生活科であるにしても、安全面の配慮というのは、私はすごく重要な部分だと思います。現実に虫に触れたり、人とのつながりという部分のところに関しても、やはり子どもたち一人ひとりに、この1年生の代から、同じような形で自分自身でもそういう安全面の配慮というものを考えられる。そういうものを培っていかねばいけないのではないかなと思っています。そういう意味では、もっと安全面についての内容が加わってもらいたいかなと思っています。東京書籍、大日本図書、教育出版については、そういうところも明記されている部分がありますので、ぜひ、その辺はさらに細かな部分ですがけれども、考えていっていただければかなと思っています。

あと、写真が大変それぞれ多く使われているので、非常にわかりやすい部分と、それから、イラストも効果的に使われている部分がたくさんあると思います。逆に、それが写真、イラスト倒れになってしまって、何を学習するのかわからなくなってしまう部分が出てくるかな、というところもあるかなと思います。やはり、低学年の子どもたちが意欲的に学習に向かえるという、そういった意味では、写真の使い方、あるいはイラストの使い方、それから、四季の自然等についても、きちんと明確な部分が出てくるような、そんなものがやはりあっていいかなと。これは、口では簡単に言えますけれども、なかなかその場面というのは難しい部分があるかなと思いますけれども、そのようなことを全般的に感じているところです。

大日本図書につきましては、現実に沿った内容ということを含めて、杉並区の実態にも沿っているかなというようなところが、特にスタートの段階のところでは感じました。それから、意欲的な部分、意欲をそそる内容というか、こんなことができるのかな、やってみたいなというような内容のものが示されているという捉え方をさせていただきました。つまり、それは教材そのものが精選されているということ。それから、資料がたくさん載せられているということ。それから、自分と家族とか、自分の成長とあわせて家族や人とのつながりという、井出教育長も話されていたような、人とのつながりの範囲という部分がさらに広がっていく構成というものが発達段階に応じた形で示されているかなと思って見させていただきました。

巻末の学習資料についても、大変充実しているのです、これはやはり、主体的な学習を促す内容になっているのかなと思いました。私も理科との関連も含めて、大日本図書が適切であるかなと考えているところです。

他の委員の方々、つけ加え等ありますでしょうか。よろしいですか。

それでは、生活につきましては、大日本図書で決定をさせていただくということによろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

ありがとうございました。それでは、ここで休憩をとらせていただきたいと思います。後半につきましては、午後4時開会ということで休憩をとらせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

(休憩)

委員長 それでは、休憩前に引き続きまして、採択の審議をさせていただきますと思います。続きまして、教科は音楽になります。

音楽につきまして、折井委員からご意見をお願いいたします。

折井委員 音楽は、教育出版と教育芸術社の2社あるのですけれども、私は、教育芸術社がいいかなと思います。と言いますのは、伝統的な音楽、曲ですとかは、両社ともに厳選されていて、とてもいい曲がたくさん、伝統的なものも本当に確実に入れる必要があると思いますので、とてもその点は両社ともいいと思うのですけれども、比較的、最近の曲に関しては、教育芸術社の方が歌の選択はとてもいいかなと思いました。自分のこれからは希望を持てるような曲がたくさん含まれていることは、子ども達は何度も何度も歌いますので、それが心の中にしみ込んでいくよ

うな、そういった効果もあるかなと思いますので、とても好感を持ちました。

ただ、一番の選択の理由は、教育芸術社の方は歌詞が同じページに掲載されています。私は、これは本当に重要だと思ひまして、歌詞の意味を音符に載せながらではなくて、別に扱って、そこで鑑賞する。曲の意味を本当に考えていくというのが、音楽のとても重要な1つの学習項目だと思いますので、それができる教育芸術社の教科書はとても優秀でいいと思います。

委員長 ありがとうございます。

続きまして、對馬委員からご意見をお願いします。

對馬委員 教育出版は、海とか富士山とかの写真が非常にきれいで、イメージを広げやすいな、とは思いました。ただ、今、折井委員がおっしゃったように、教育芸術社は非常にベーシックで、これからも歌い継がれていくような歌唱教材が大変多く掲載されていまして、鑑賞教材も適切な量があると思いますので、教育芸術社の教科書でいいのではないかと思います。

委員長 ありがとうございます。

それでは、井出教育長からご意見をお願いします。

教育長 特段、意見はないのですけれども、よく学校に行って、音楽の様子を見ていると、以前に比べると子どもの声がとっても良くなっているのですね。合唱の指導というか、歌唱の指導が変わってきている。音楽の先生、もちろん専科の先生もいますけれども、大声でがなり立てて歌うような歌い方ではなくて、本当にきれいな声で子どもたちが歌っているのを聞くと、いや、すごいなど、本当に素直にそういう感じを持つのですね。多分、音楽を教える時に、教科書に載っているものだけではなく、いろいろな教材を選んで、子どもが歌いやすいものや、歌いたいもの、それから、また歌ってほしいなど大人が思うもの、もちろん子どもたち自身が歌いたいなど思うものを含めて、いろいろなものを選びながら歌い込んでいくのだらうと思うのですけれども、いろいろな歌をきれいな声で歌っている、そういう場面に学校へ行くと出会うことができる。そういう意味では、杉並区の音楽教育というのは非常に充実しているなという感じを改めて、行くたびに思います。

音楽の先生から特段、教科書がこれでなくてはいけないとか、これで

ない方がいいとか、ぜひこれにしたいとかという意見は、もちろん具体的に聞く場面はないのですけれども、調査報告の内容を見ていっても、ぜひこれに変えたいというような記述は見当たりませんし、現行の教育芸術社の不都合さが指摘されているという部分もありません。確かに、あれがいい、これがいい、これはいけないという記述が特に出てくるわけではありませんけれども、特段、変えなければならない理由もないと私は考えています。

委員長 ありがとうございます。私からですけれども、2社の中でということで、学習の狙いが明確になっているという部分、これはそれぞれ両方とも同じような内容になっているかなと思います。特に、系統性を意識した学習、あるいは今も話に出ましたけれども、今後も歌い継がれていくべき歌唱教材などが多く使われているということ、あるいは鑑賞教材等も適切な量になっているという部分も考えていくと、教育芸術社がその内容に適しているのかなと思います。

1年生の鍵盤ハーモニカの縦吹きというのが、教育出版で、結構早い段階で出てきているのですけれども、この辺のところは、実際に鍵盤ハーモニカを縦に吹くというのは、ある意味では高度なものになるので、この辺のところはどうなのかと、ちょっと感じたところもありました。そういったことを総合的に考えていった中で、やはり教育芸術社の教科書が適切ではないかなと私自身も考えているところです。

他にご意見等、つけ加えはありますでしょうか。よろしいですか。

それでは、音楽につきましては、教育芸術社ということで決定をさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

それでは、そのような形にさせていただきたいと思います。

続きまして、図画工作に移らせていただきます。同じく折井委員からご意見をお願いいたします。

折井委員 図画工作は、開隆堂と日本文教出版と、やはり2社からの出版があるのですけれども、開隆堂は、今、第一線の作家の方の作品と言葉が紹介されているというところは、調査報告書でも非常に好感を持って受け入れられているのかなというのがわかりました。やはり、子どもが美術館に行って、いい作品を見るという機会は、お家の方がどれくらい好きかということに影響されるのかなと思うのですけれども、なかなか

機会がないのかなと思いますので、こういったもの、すばらしいものが見られるのは非常にいいかなと思いました。

一方、日本文教出版は、用具の使い方ですとか、安全について丁寧な説明があるというのはやはり重要ではないかなと。そこがきちんとされているのはいいなと思いました。

あと、こちらは教科書調査委員会からの調査報告で意見をもらったものですけれども、落ち着いた色使いであるというところがいいということ伺いました。最近のお子さんは、やはりアニメとかになじんでいますので、とてもはっきりした色使いになれていると。なので、それ以外の、本当に自然な、というのでしょうか、落ち着いた、いいという表現を使っていいのかわからないですが、それ以外の色彩感覚を養うことも重要なのではないかなと思いますので、そういった点からも、日本文教出版はいいのかなと思います。

委員長 ありがとうございます。

それでは、對馬委員、ご意見をお願いします。

對馬委員 私も折井委員と同じようなことで、色彩のことは、教科書調査委員会から調査研究結果の報告で、やはり、日本文教出版が落ち着いていて、適していると伺いました。開隆堂は判が少し大きいので、その分、ちょっと見やすいかなとは思いますが、日本文教出版は1つの題材が見開きで掲載されていて、授業にも見やすいと伺いました。

巻末の道具の使い方のところを見比べますと、日本文教出版が丁寧でわかりやすいかなと思いますので、日本文教出版でいいかなと思います。

委員長 井出教育長、ご意見をお願いします。

教育長 開隆堂を私が気に入ったのは、見開きに「小さな美術館」というのがあるんですね。1枚めくると短文が出てくるのです。例えば、6年だと、「ゆめを広げて、魂をこめて、作品をつくる」。これは、実は表紙、つまり教科書のタイトルが、6年生は「ゆめを広げて」というタイトルなのです。タイトルが「ゆめを広げて」、「小さな美術館」があって、開いて次に、「ゆめを広げて、ゆめをかたちに」。これは、定番の共通したタイトルなのですけれども、「ゆめを広げて、魂をこめて、作品をつくる」。この最初の3ページに、ここで言おうとしている、表紙から3ページまでの中で1つの主張があると読みました。

日本文教出版も同じように、例えば、「教科書美術館」というのが一番最初に出てくるのです。教科書のタイトルは、1年生は、「たのしいな おもしろいな」。3、4年生は「見つけたよ ためしたよ」。5、6年生は「見つめて 広げて」。これはやはり、興味・関心や、技術的ないろいろな体験が広がっていく、そういう成長のプロセスを踏まえて、こういうサブタイトルがついているのだらうと思います。両方の出版社とも、そういった意味では編集の意図が非常にはっきりしていて、どちらもいいなと思いました。

先ほどから指摘をされている色調というか、色合いですけれども、確かに、日本文教出版の表紙などは非常に色がメルヘンチックというか、やわらかい感じですずっと統一しているというのは、確かにそういう感じもするなと思います。

現場の先生に聞くと、教科書というのはこれで全部をやっているわけではない。あくまで1つの作品のサンプルであり、あるいは、作り方の幾つかの技術的な部分について解説してあったり、あるいは、発想を助ける手段であったりして、言ってみれば、別にこのとおりにやるわけでもなければ、ここに書いてあるものを真似するわけでもなければ、そういうものではないから、いろいろな資料が提供されている、子どもがこれを見た時に、ああ、なるほどなとってイメージが広がっていく、そういうものが望ましいのだという話され方をしていました。そのとおりでらうと思います。そういう意味で、日本文教出版も、開隆堂も、本当にどちらもすばらしいなというところですよ。

開隆堂に変えなければならぬという理由を一生懸命考えてみたのですけれども、一番最初に言いましたように、大幅な変更が、今後4年後には予想されるということからすれば、いろいろな発想で新しい教科書が出されてくるだらうと。そこで、改めてもう一遍、考えてみてもいいかなと思いました。

委員長 ありがとうございます。それでは私からも。今、3人の委員がおっしゃった部分と本当に共通する部分がたくさんありました。感性を磨いていくという点で、本当に大事な資料になる部分があると思います。開隆堂については、そういった意味では、ヒントとなる資料がもう少し具体的に出てきているといいのかなとは思いました。ただ、プロの話を載せているところなどは、非常に興味を引く工夫をされているなと思い

ました。

一般的に見ていくと、日本文教出版については、やはり学習のめあてだとか、特に制作過程の写真、あるいは注意事項などが具体的に示されている。そういった意味では、子どもたちの学習の流れというのが大変わかりやすく構想されているのではないかと思います。他の教科とも合わせて、主体的な、あるいは創造的な学習というものに取り組む工夫がされているので、やはり私も、日本文教出版の教科書が適切ではないかと考えているところです。

他につけ加えのご意見はありますでしょうか。よろしいですか。

それでは、図画工作につきましては、日本文教出版の教科書に決定させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

では、そのような形で進めさせていただきたいと思います。

続きまして、家庭科に移りたいと思います。對馬委員からご意見を願います。

對馬委員 家庭科も2社でございまして、東京書籍と開隆堂ですね。家庭科とは、本当に実生活に結びつくか、そこで主体的に学んでいくことができるかということと、やはりこれも安全面で、包丁などを扱いますので、そういったあたりが大事かと思えます。

大きな違いはあまりないような気はいたしますが、丁寧かつ簡単な実習例に、開隆堂の方がなっているかなというような印象を受けまして、学習の目的、めあてなどもわかりやすいですし、防災・安全面の記述もわかりやすいので、開隆堂が適切かなと感じました。

委員長 ありがとうございます。それでは、続きまして、折井委員からご意見を願います。

折井委員 こちらも甲乙つけがたいというのでしょうか、本当に難しくて、どちらかというところ、開隆堂の方が、学ばせたい観点がより明確になっていて、年間の単元構成ですとか、イラストとか写真の使い方は総じて安定しているというのでしょうか、レベルが高いのかなと思いました。写真を使うのは、どの教科に関しても本当にきれいな写真が使われていると思うのですが、どこをイラストにして、どこを写真にするのかというのは本当に微妙な違いだと思うのですが、開隆堂は、「ここはイラストがいいよね、わかりやすいよね。ここは写真がいろいろ語って

くれるよね」というところをうまく効果的に使用しているのかなというふうに思いました。

家庭科という科目は本当に生活に密着しているので、単元の目標がちょっとぼやけやすいところがあると思うので、特に何をここで学んでほしいのかというところを明確に打ち出す必要があると思うのですけれども、その点で開隆堂は、本当に明確になっているのかなと思いました。現行ということもありますので、開隆堂ということによいのではないかと私は思います。

委員長 ありがとうございます。それでは、井出教育長からご意見をお願いいたします。

教育長 私は、家庭科というのは、自立して、社会の当事者として生きていくということ、そのための準備をしていく。これは他の教科についてもそのとおりなのですが、特に5年、6年の時期に、身近な生活、家庭生活に関わるもの、あるいは社会生活に関わることを学びながら、社会に自立していくという、責任ある当事者として生きていくことの素養というか、基礎的な部分をしっかり身につける教科だと理解しているのですね。

そういうことは、例えば男女平等であるとか、男女共同参画であるとかという四文字熟語を並べて理解していくのではなくて、身近な学習を通して、自立していくことや男性も女性も協同して豊かな社会をつくっていくことが大事なのだということを、家庭科という、非常に身近な題材を扱う学習を通して学んでいくのだらうと思うのです。

2社しかないのですが、開隆堂の目次は、非常にそこを明確に表していると私は見ます。「誕生」、「入学」、そして、ずっと行って、「支えられている自分」。5年生になって、「生活を見つめ、できることを増やす」。そして、「できるようになる自分」。今度6年生は、「くふうして、生活に生かす」。そして、「成長していく自分」。最後に、「生活をくふうし、創造する中学生へ」という、右上がりにとんと成長していくのを目次で表していて、これはなかなかダイナミックでいいなという、この訴える力、こういったことを子どもにぜひわかってほしいなという、その気持ちがよく伝わってくる構成だなと読みました。

中身も当然、それを受けているわけですが、一番最後が「共に生きる生活」ということで締めくくっているのですね。社会で自立していくと

いうこと、それは、1人で生きていくことではなくて、共にみんなが手を携えて生きていくのだということを家庭生活、家族生活や地域の中での生活と絡ませて、6年の最後にしっかり学んでいくという、そのコンセプトが非常にわかりやすくまとめられているという意味では、大変よくできているなと思いました。

東京書籍は、一番最後に、今、これからの時代に一番必要な考え方、「持続可能な社会をめざして」ということで、見開きをもう1面使って説明しているのです。願わくは、簡単に見開きだけで説明するのではなくて、こうした考え方を単元の中に、もうちょっと具体的に展開していくことも大事かなと。そんなことを今後、つくり変えていくときに意識して主張して行ってほしいと思いました。

委員長 ありがとうございます。それでは私の方から。実際に自分も家庭科を教えた経験があって、その時から比べると、本当に教科書そのものが全然わかりやすくなっているなということ、見させていただいてつくづく感じているところです。ただ、実際に指導していくうえでは、資料等がわかりやすい部分と、それから、学習の意欲というものをどう喚起させていくかという部分、その辺がすごく大事になってくるかなという気がするのと、やはり安全上のことも含めて考えていくと、例えば調理実習などについても、基本が丁寧に記されているかどうかは、教える立場にとってみると、そういうものはすごく感じるなと思います。

その意味では、開隆堂の教科書については、特にめあてが立てやすいということと、自己評価をしながら学習に取り組める構成になっているところがすごくわかりやすく構成されているなと感じました。對馬委員からも出ましたけれども、防災・安全に関する内容についても、具体的なものが多くて、充実したものがあるかなと思っています。

東京書籍も、「プロに聞く！」という欄については非常に参考になる中身であるし、めあての立てやすい構成もできていると思うのですが、イラストそのものが多過ぎるかなという感じが、写真が高価というものあるかと思うのですが、ここの部分は写真があればなというところが、幾つかのところに出てきたなと思っています。

そんなことを総合的に考えていきますと、やはり内容の充実も含めて、開隆堂の教科書が適切であるかなと私自身も考えているところです。

他に付け加えのご意見等ありましたら、お願いいたします。いかがで

しょうか。

折井委員 東京書籍について言い忘れてしまったのですが、教科書調査委員会からの調査報告があったのですけれども、教科書内にワークシートがある形式というのは、教科書だけで問題解決型学習が進められるので使いやすいということがありました。教科によって、ワークシートは先生方が別に用意をしてやるので、ワークシートはない方がいいというケースと、やはり教科書の中で完結できた方がいいと、科目によっていろいろあるみたいですが、家庭科に関しては、ワークシートが好評だったということがあります。ですが、やはり全体的に開隆堂を選択するのがいいと思います。

委員長 他にいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、家庭につきましては、開隆堂の教科書に決定させていただきたいと思いますが、異議は特にありませんでしょうか。

(「異議なし」の声)

ありがとうございました。それでは続きまして、保健に移らせていただきます。對馬委員からご意見をお願いいたします。

對馬委員 保健は5社ございまして、他の教科と違い、非常に判の大きさ、本の大きさにばらつきがあります。学研教育みらいと文教社は判が大きく、東京書籍が変則で横だけが大きく、大日本図書と光文書院はB5のちょっと小さい判を使っています。ただ、現場の先生に教科書調査委員会の報告会の時に伺いましたらば、保健の教科書は大きくても小さくても、使い勝手としては特別問題はないと伺いましたので、判が大きいと見やすいのかなという印象は受けました。

保健の場合には、特にやはり、毎日、健康で安全な生活を送るため、実生活に役立つことを身につけていくことが大事な教科になってくるかと思います。先生方からは、成長期の男女の違いについて、着衣である方が教えやすいというご意見を伺ったのですけれども、学研教育みらいは着衣で、光文書院は水着なんですけれども、この2社が、どちらも男女の体の違いから、ちゃんと命の誕生へ運んでいっているのですね。やはり私は、体の成長の違いだけではなく、命の誕生へつながる方がいいかなと思いました。

それから、インターネット犯罪についても、学研教育みらいと光文書院には掲載されていまして、今の子どもたちに、そこは大事な部分かな

と思いました。

光文書院ですけれども、調べ学習への発展がほとんどないのですね。それに比べて、学研教育みらいは調べ学習への発展も適量にございましたし、資料も多かったということで、私は学研教育みらいがいいかなと思いました。

委員長 ありがとうございます。それでは折井委員、続けてご意見をお願いします。

折井委員 現行の学研教育みらいは、いろいろなポイントを全部押さえてくれているかなという印象がありました。各社ともに、ここの部分はこの会社がいいなと思うところがそれぞれあって、そういう点ではすごく難しいのですけれども、学研教育みらいの場合には、ポイントが全部、いいところで並んでいる、押さえているなというのが感想です。

大判で見やすい。あとはワークシート形式で、家庭科と同じで書き込めるというのは、やはり、短い時間でぎゅっと凝縮させて学習ができるので使いやすいという評判があると聞いております。あとは、見開きでわかりやすく、分量も適当であるということ。あと、私はここが一番重要なのではないかなと思うのですけれども、保健はまさに自分自身を育てていくというか、自分を生活者としてどう育てていくかという時に自立を目指す教科であるので、自分の行動を振り返ったり、もしくは自分はどうしたらいいのだろうという行動変容を促すような構成になっているのは非常にいいかなと思いました。1つずつ、少しずつそれを授業の中で扱うことにより、生活が乱れやすいような社会的環境が揃ってしまっている現代なので、その中で学習したもので自分の生活をつくっていくという点で非常にすぐれた教材であると思いますので、学研教育みらいを続行すべきだと思います。

委員長 ありがとうございます。続きまして、井出教育長、ご意見をお願いします。

教育長 お二人のご指摘とそんなに変わらないので重複は避けませけれども、今後、教科書のデジタル化が今も進められているわけですけれども、教科書のデジタル化については検討していかなければいけない中身がたくさんあり、軽々に導入を図っていくのもよく考えていかなければいけないということを含めて自戒をしているのですけれども、この保健の教科書を見ていて、これをデジタル化していったら、ペーパーベースの

教科書ではなく、むしろ動画とか映像で、いろいろな科学的データや生理学的なデータを映像化していく、見えるような形にしていったら、一番いい教科書というか、テキストになるかなと思っています。よく生物の発生から成長というのは、昔であったら高速度カメラで時間短縮して撮影したものとかがあるでしょう。それから、これからはデジタル化することによって、様々な映像を加工することもできますから、そういう意味で、今はペーパーベースの教科書でいいですけども、こういった成長とか変化とか、あるいは薬物の影響であるとか、疾病であるとか、そういったものをわかりやすく表現していく上では、デジタル化していくことも望ましいのかなと改めて考えているところです。わかりやすいということから考え、そして変化を追うことができるということも、表現の方法を工夫していく時が来ていると思います。

今回は、学研教育みらいでいいのではないかと思います。

委員長 ありがとうございます。デジタル化という話が出ましたが、今後、そういう部分が全体的に流れていくのかなとは思いますが、期待もしたい部分があります。保健はやはり正直言って、現場では一番行われていないというか、なかなか行っていない部分になるかなと思います。実際行っていないわけではないのですけれども、一生懸命行っている先生方もたくさんいらっしゃるのですが、これまでずっと保健というものに関しては、体育が雨になったときに行っているような感じが多く、それはなぜかというところ、やはり、資料的にもすごく少なかったりというのがあったのかなと思っていました。ただ、各社ではそれを工夫しながら、大変、細かく資料を載せている部分もたくさんありますし、写真等も大きく使っている部分があると思います。ただ、資料としては、より新しい資料が欲しいという部分、写真についてもそうですし、先生方も、その部分を使いながら保健学習を積極的に進められるという部分を考えていくことも一番大事な部分になるのかなと思っています。

B5判の場合には、現場の先生方はそんなに気にはならないというのがあるのですが、A4判で大きく出されているものに比べれば、やはり見づらくなってしまっている部分があるのかなと思っています。

そのようなことを含めて考えていきますと、3委員と同じように、私自身も学研教育みらいの資料については大変豊富であるなということと、特に保健の課題が明確に示されているのではないかと感じて読ませてい

いただきました。一貫性を持った構成がある部分と、それから主体的に学べる内容が盛り込まれているということ。これはイラストや写真が大きく影響している部分もあると思いますし、資料のわかりやすさという部分もあるのではないかなと思います。そういった意味では、内容の理解を含めて有効な構成になっているかなと思いますので、学研教育みらいの教科書が適切ではないかと考えているところです。

それでは、他にご意見、つけ加えること等ありますでしょうか。よろしいですか。

では、保健につきましては、学研教育みらいに決定をさせていただきたいと思います。

(「異議なし」の声)

以上で、各教科等についての教科用図書の内容についての検討は全て終わりました。全体を通して、何かつけ加えるご意見等ありましたら、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

教育長 最初にお話をしましたけれども、展示会のアンケートの中に書かれていたことの中で、採択の手順がどういう風になっているのかを知りたいという意見があったのですね。我々は、ともするとその辺を知っているものですから、あまり意に介さなかった部分もあるのですけれども、確かに教科書の見本本を展示して、そして、それがどういうふうに検討されて、採択されていくのかということも、やはり区民によく理解していただくことも必要なので、私たちが苦勞して検討していく、そういったことも理解していただきたいし、それから、その手続きについてもご理解いただきたい。それは最初に円周率3.14が復活してよかったと言われて、私も、そういうことではなかったはずなのだけど、と思ったのと同じように、意外とお互いにわかり合えていない部分があるので、採択手続きを含めて広く理解していただくためには、今後、そういった工夫もしていく必要があるかなと思いました。

2つ目は、来年、小学校1年生に上がるお子さんをお持ちの保護者の方が、自分の子どもたちはどんな教科書を使って勉強するのだろうと思って見に来ましたという、教育に対する期待といたしますか、多分、最初のお子さんだと思われるのですけれども、新しく始まる学校での教育が、どのような教科書を使って、どのように展開されていくのかに対する大きな期待もあると思うのですね。ですから、教科書を採択するというこ

とももちろん大事なことですけれども、その教科書を使って、どういう教育を展開していくのか。それはやはり、我々の一番大きな責任でもあるし、そういったことについても期待に応えていかななくてはならないなと、改めてこの新しい教科書を読みながら、展示会のアンケート等も伺いながら、そう考えたところです。

委員長 ありがとうございます。大変、重要なご意見だと思います。他につけ加えのご意見等はよろしいですか。

やはり、実際に子どもたちに、本当に力をつけていくという部分では、その教科書をどういうふうに生かしながら指導をしていくかという部分が大きなものになってくるかなと思います。あわせて、今後また、ぜひ全力で考えていければなと思っていますところでは。

他に、特にご意見等としてはございませんので、審議は終わりとさせていただきたいと思いますが、ここで、改めて採択教科書の確認をさせていただきたいと思います。

まず、国語が光村図書、書写が光村図書、社会が東京書籍、地図が帝国書院、算数が教育出版、理科が大日本図書、生活が大日本図書、音楽が教育芸術社、図画工作が日本文教出版、家庭が開隆堂、保健が学研教育みらい、という形で採択を決定させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

それでは、以上で議案第42号「杉並区立小学校において使用する教科用図書（平成27～30年度使用）の採択について」の審議を終了いたします。

続きまして、日程第2、議案第43号「杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書（平成27年度使用）の採択について」の議案を上程し、審議いたします。

済美教育センター所長から説明をお願いいたします。

済美教育センター所長 引き続き、私から、議案第43号「杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書（平成27年度使用）の採択について」、ご説明いたします。

特別支援学校及び特別支援学級で使用する教科用図書につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律など、関係法令によって、毎年採択が行われることになっております。小学校教科用図書

の調査研究と同様、規則、要綱、手引に基づき、特別支援教育教科用図書調査委員会を設置するとともに、特別支援学校及び特別支援学級からの報告を参考に、合計673点の図書について2回の調査研究を行いました。

調査研究結果につきましては、8月6日に特別支援教育教科書調査委員から、教育委員へ調査報告書とともに、口頭でもご報告をさせていただきました。提案理由は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び第14条の規定に基づき、学校教育法附則第9条の規定する教科用図書を採択する必要があるため、ご審議をお願いするものでございます。議案の朗読は省略させていただきます。

委員長 ありがとうございます。それでは、特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択についてのご意見等をお聞きしたいと思います。それでは、對馬委員からご意見をお願いいたします。

對馬委員 特別支援学校に関しましては、例年どおり、全部丸ごと採択をし、それぞれ、お子さん一人ひとり違いますので、その子に合った教科書を使っていただければいいのではないかと思います。

委員長 ありがとうございます。折井委員、お願いいたします。

折井委員 私も同意見で、より多くの書籍の中から、先生方が自分の受け持った児童や生徒に合ったものを選ぶように、一括採択でいいと思います。供給不能というものが何冊かあり、とてもいい本なのに残念だというものも含まれているのですけれども、新しいものでも非常にいい本もあると思いますので、来年度以降も、選択の幅がより広がるようになっていけばいいなと思います。一括採択で結構です。

委員長 ありがとうございます。井出教育長、お願いいたします。

教育長 私も、お二人の考えで構わないと思います。今後のあり方といいますか、恐らく、この特別支援教育だけではなく、教科書にCDが付随してきたり、あるいはデジタル化されたものが出てくるということは既に始まっているわけで、杉並区も、特別支援学級あるいは特別支援学校で、タブレットを使った学習を進めていく準備を進めているところですが、当然、学び方の多様化、学ぶ媒体の多様化を考えていかななくてはならないわけです。使用する教科書等についても、そういったことを想定したのもこれから考えていかななくてはならないし、例えば、鉛筆を持つことができない障害のあるお子さんでも、タブレットの表面を指でな

ぞることによって、文字をあるいは線を表現することができる、そして、その教育的な効果も報告されておりますので、教科書等についても、障害の程度、あるいは障害の内容に応じて、より学習を深めていくことができるような、そのようなことも検討していく時期に来ているのかなど。特別支援学校、特別支援学級が使用する教科書等については、毎年採択はするわけですけれども、いずれにしても、今後の方向性としては、そのことも含めて考えていきたいと、今回、教科書採択の様々な資料を読みながら改めて思ったところです。

委員長 ありがとうございます。私も3人の委員と同じような意見です。やはり、それぞれ発達の段階も違ってきますし、障害の多様性も含めて考えていきますと、一人ひとりの違い、個々に応じた形での対応とか指導というのが特に重要になってくると考えているところです。こういうことを含めて考えていきますと、やはり選択の対象については、できる限り広い方が、個に応じた形の内容になっていくと考えていけないのかなと思います。可能性を広げておくということ、これはつまり、個においた指導がきめ細かな指導につながっていくものだと考えて、この一覧のと通りの採択でよいのではないかなと考えております。

それでは、他にご意見等、つけ加えがありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、特にありませんので、議案第43号につきまして、特別支援教育教科書採択候補一覧のと通りに採択をしたいと思いますが、異議はありませんでしょうか。

(「異議なし」の声)

では、異議がございませんので、議案第43号は議案のとおり可決いたします。

以上で、予定されておりました本日の日程は全て終了いたしました。庶務課長、何かご連絡等ありましたらお願いいたします。

庶務課長 次回の日程でございますが、日程的には次回の定例会は8月27日(水)となっておりますのですが、この日が区議会開会のため、委員長に相談をした結果、前日の8月26日(火)に日程を変更させていただくこととなりました。そのため、次回の定例会は8月26日(火)の午後2時からを予定しております。よろしくお願いいたします。

委員長 それでは、次回の定例会につきましては、8月26日(火)午後2

時からということで、ご予定をよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、本日は長時間にわたりまして、ありがとうございます。
本日の委員会はこれで閉会させていただきます。お疲れさまでした。